

【基盤研究(S)】

人文社会系(人文学)



研究課題名 天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展—知の体系の構造伝来の解明

東京大学・史料編纂所・教授 田島 公 (たじま いさお)

研究課題番号: 17H06117 研究者番号: 80292796

研究分野: 人文学、史学、日本史

キーワード: 日本目録学、日本古典学、禁裏・公家文庫

【研究の背景・目的】

現在、日本の古典の研究者を取り巻く研究環境は厳しいものがあるが、過去4回17年間に及ぶ大型科研究費による禁裏・公家文庫の目録学的研究の集大成として、(1)東京大学史料編纂所閲覧室で公開中の宮内庁書陵部等に収蔵される禁裏・公家文庫収蔵史料約100万画像(メタデータ付き)を、既存の公開システムを改良してWeb公開すること、(2)京都御所東山御文庫所蔵史料及び京都御所・同離宮所蔵歴史・文学・建築・美術・庭園等の学術資料の高度利用化、(3)「日本目録学」の基盤を固め浸透させる為に、家ごとの文庫史・蔵書目録・研究論文等の体系化とその総体の提示を行い、国際発信すること、(4)日本古典学振興の為にDB・研究支援工具の作成・公開と研究者・市民向け古典学の公開講座の継続等、以上四点の研究活動を通じて、日本古典学の研究環境を大きく改善し、研究者に希望を与える新しい史資料や研究視角を提供すると共に、前近代日本の「知の体系」の構造と伝来を通時的・共時的に解明する。

【研究の方法】

(1)従来の所内限定の閲覧システムであるHi-CAT Plus(東京大学史料編纂所蔵目録DB改良版)をWeb公開可能なシステムに改良し、宮内庁書陵部所蔵の禁裏(天皇家)・公家収蔵家分け史料(伏見宮家本・九条家本等)約100万画像をWeb公開する。

(2)侍従職所蔵『東山御文庫本目録』のDB化や近世禁裏文庫蔵書目録との対応関係の解明、東山御文庫本デジタル画像と『京都御所東山御文庫記録』との画像リンク作成等を行い、京都御所・離宮所蔵学術資料の高度利用化も促進する。更に「東南院文書」・陽明文庫本の地元での画像公開の準備を支援する。

(3)各家文庫の蔵書の特徴や創始・伝来・再興等に関わった人物、蔵書目録、各文庫間の写本の貸借関係、研究論文等の情報を集成し、禁裏・公家の文庫ごとの研究を体系化し、目録学の総体を提示する。

(4)古典学振興の為に、「日本目録学」を応用したDB作成、宮内公文書館管轄「特定歴史公文書」内の学術資料(各種実録他)のDB化、研究支援工具等の作成を行い、研究者・市民向け公開講座を開催する。

【期待される成果と意義】

(1)約100万コマのメタデータ付きのデジタル画像のWeb公開により新史料や善本の「発見」が期待され、海外でも精緻な写本研究が可能となり、日本古典学の国際化を促進する。

(2)侍従職蔵「東山御文庫目録」のDB化により東山御文庫本の全体像が浮かび上がり、それと近世禁裏文庫の蔵書目録収載本との対応関係の確定により、近世禁裏文庫の書庫のバーチャル復原が実現し、公家文化の「知」の体系の俯瞰が可能になる。更に京都御所・同離宮関係の学術史料のDB化・活用は、隣接人文系諸分野(美学美術史・考古学など)のみならず、文理融合型分野(建築史学・意匠学・造園学・景観学など)への展開も期待され、新発見の学術的な裏付けをもった観光資源化への活用は、地域貢献(インバウンドの増加による経済効果)に繋がる。

(3)「目録学的研究方法」(蔵書目録を活用して書物を、世代を超えて「知」を伝える素材群として捉える方法)の浸透により、文庫収蔵史料の個別研究が前近代の知識体系の全体構造の解明へと発展する。

(4)研究に至便な宮内庁で公文書扱いの資料のDB化により、未活用の「研究資料」の学術利用が促進され、新しい研究の素材・ツールや視点を提供することで、研究者に希望を与え、人文学に漂う閉塞感を払拭し、古典学再興への足掛かりを与え、所蔵機関との信頼関係により創成された「禁裏・公家文庫の目録学的研究」が一つの体系的な研究システムとなり、研究者・市民に平等な研究機会を与える。

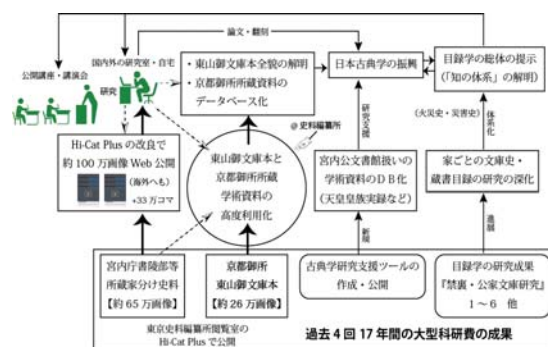


図1 本プロジェクトの活動と成果

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

田島公編『禁裏・公家文庫研究』1~6輯(思文閣出版 2003・06・09・12・15・17年)

【研究期間と研究経費】

平成29年度-33年度 157,000千円

【ホームページ等】

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-in dex.html> (禁裏・公家文庫研究の窓)